１、会場の変更と年始挨拶

年始のお忙しい中、2025 年度、株式会社タカシマ賀詞交歓会にお集まり頂きまして、誠に有難うございます。

東京駅で乗り継いで来られる方が多い中、以前の学士会館と比べやや遠くなってしまったことをお詫び申し上げます。会場を変えた理由は、学士会館が修復のため閉鎖されたから、であります。文化財だったそうで、何と 5 年計画だそうなので今後暫くはやや離れた会場、または平日開催に、ご理解ご協力をお願いいたします。

さて、お集まり頂きました皆様方におかれましては、弊社が発信しております様々なメッセージ、例えば「ユーザー様の調達合理化のお手伝い」や「取引先支援」などにご理解いただき、昨年中も様々なご協力をいただきました。特に昨年新たに実施いたしました「メーカー同行営業」にご協力いただきましたお取引先様には深く感謝を申し上げます。こうして穏やかな新年を迎えることができますのも皆様方のおかげに他ならず、深く感謝を申し上げる次第であります。本年も全社一丸となって発信し・実践し続けて参りますので、どうぞご支援のほどよろしくお願いします。

２、昨年を振返って

新年度を迎えるに当たり、昨年、2024 年度を振返ります。

能登半島の大地震で幕を開けた昨年は、経済もまた大波乱の一年でした。株価の推移を見ても、2 月には円安による輸出産業への期待感から 1989 年のバブル期の最高値を 34 年ぶりに更新しました。そして 7 月に最高値を更新したかと思えば、8 月には日銀による為替介入や 160 円を超える過度な円安への警戒心から 1987 年のブラックマンデー以上の暴落をもまた記録しました。これら波乱の原因の全てが「これ」だとは言い切れませんが、やはり世界一位と二位の経済大国である、アメリカと中国が大きく影響していることは間違い有りません。具体的には自由主義と覇権主義と言ったような二つのイデオロギーが、それぞれに転換点を迎えたことが日本を大波乱に陥れたように感じています。昨年の大波乱を理解するには、もう少し前から振返らなければならないと思います。

話しをグッと拡げます。自由主義は、21 世紀になって日本をはじめ世界に広まってきましたが、近年、アメリカやドイツ国内の分断やコロナの混乱に乗じて同時多発的に再燃してきた覇権主義や専制主義によって、あわやとって変わられてしまうのではないかという勢いで劣勢に追い込まれてきました。それが昨年は、アメリカのトランプ大統領選出や、覇権主義の限界が露呈し始めたことなどがあって、自由主義に復興の兆しが見え始めた折り返しの一年でもありました。特に年末に起きたシリアにおける麻薬王・アサド政権の崩壊、そして麻薬と引き換えに化学兵器を購入してきたロシアへ逃げ込み亡命という出来事

は、正に象徴的でした。経済面でも、そうした地域への自由主義国からの投資が止まったことは、彼らにとって致命傷になりつつあります。コロナによって疲弊していたところに、本来、相矛盾する自由経済と計画経済を混ぜ合わせたような覇権主義経済とでも言ったようなものが世界中を混乱・停滞させたまま、未だ改善の糸口が見えません。例えば中国は、返済不能時の権益取得と引き換えに発展途上国に莫大な元を貸し付けてきましたが、権益を得られたところで流失してしまった元が戻って来る訳ではないので、今や崩壊寸前であります。しかし、そうした覇権主義諸国にとって本当の危機は、自国の将来を悲観し自由を求めて自由主義諸国に出て行ってしまった優秀人材の流出かもしれません。

自由主義は昨年までの十数年間、明らかに迷走してきました。では自由主義が覇権主義の台頭を許すような迷走をしてきた原因は何だったのでしょうか。ここから述べることは賀詞には相応しくありませんが、2024 年を理解しまた今後起きるであろうことを理解するために必要だと思うので、敢えて私見を述べさせていただきます。私個人的には、その原因は、オバマ政権の 8 年間に有ったと決め付けています。途中トランプ政権の 1 期 4 年を除き、その後はまたバイデンに引き継がれ現在に至ります。日本ではこの時期、安倍政権から岸田政権に相当します。この間、自由主義に起きたことは何だったか。それは、過度なリベラル派による政治的正しさ、いわゆるポリティカル・コレクトへの偏りでした。今月 20 日から始まる第二次トランプ政権下のアメリカでは、過度なリベラルに反対のトランプ大統領により行き過ぎたポリティカル・コレクトは止まると思いますが、日本はどこまで滑って行くんでしょうか？

確かに自由主義の社会には、人の根源的欲求を原動力とするが故の、貧富の格差や薬物の蔓延などといった問題が多く内在しています。しかし昨年報道で目にした映像は、それらの問題と同居してもなお自由で公平な社会を望む世界の人々の存在であり、専制主義を打倒するため命掛けで闘っている姿でした。その度に今享受している自由主義が決して当り前のものではなく、これを維持するために何をすべきかを考えさせられた一年でした。

さて、今度はグッと狭めて、弊社を振り返ります。昨年度の業績は、お恥かしながら一昨年比で約一割の減収・減益に終わりました。比較対象である一昨年が、値上げの追い風なども有って良過ぎた、と言えばそうですが、昨年 2024 年度一年間の損益、費用対効果のの面で見れば、経費予算の配分を誤ったことには間違い有りません。これをいつもの私流に言うならば、売り上高の減少については、「市場からの理解や賛同を得られなかった」ということであり、また利益の減少については「市場からのエールを頂くことができなかった」ということになります。

昨年はベトナムの新会社設立を筆頭に、取引先支援や営業利益管理といった様々な施策を実行してきましたが稔らず、説明してきたような不安定な世界経済の悪影響を受けたので要因の多くは環境変化ですが、問題はそれに対応できなかったことでした。対応できな

かった原因は、日常のルーティーン作業に安住し、「そもそも」を忘れていたことにありました。そもそもとは、「費用対効果」の世界に居るのだ、という自覚です。平たく言えば、売上げが上がりそうなことに対して先に費用を掛けて、その結果、後から売上げが上がる、ということ。その点で言えば、環境が変わって売上げが上がらなくなったのに、相変わらずそこに無駄に費用を掛け続けていた、例えば的がもう無くなったのにムダに矢を射続けていた、というようなことになります。

３、今年度やること

次に今年やること、ですが、申し上げてきた去年の振返りの中にすでに答えが出ています。つまり経費予算の精度向上、であります。昨年の失敗は二つ、①売上げが上がらなくなったのに無駄に経費を掛け続けたこと、また②経費を移動すべき新たに売上げが上がりそうな別のことを見付けなかったこと、この二つと言えます。その道しるべは、営業利益です。経営のプロである皆さんには釈迦に説法ですが、売上げから仕入れ原価を引いた粗利だけでなく、そこからさらに売るために掛かった経費も差し引いたものが営業利益。営業利益の観点で再点検し、営業利益が出ていなかったら速やかに①と②に取り組む。特に②の「新たに売上げが上がりそうな別のことを見付ける」、についてはつい 4 日前の仕事始めで社内にこう発信しました。そのままお伝えします。『「0」から全く新しいことを考え出せ、とは言いません。すでにある、まだ点在し繋がっていないものを繋ぐだけです。確かに従来手法では手詰まりで、完全競争化し営業利益を出し辛くなってきましたが、反面、当社はモノ作りに広く使用されるネジを扱っているが故に、幸い社内や周辺には新たな経費移動のネタとなる「まだ繋いでいないもの」が沢山あります。「新たな経費の移動」先を見付け、提案してください』と言いました。お取引先様からも、「これまだ繋がって無いんじゃない？」とお気づきの点がございましたらご指摘をいただければと思います。

４、結び

世界大恐慌の 1929 年に創業した弊社は今年で 96 周年を迎え、100 周年まであと 4 年と秒読みに入りました。今年度も「100 周年からの飛躍」のため様々な準備を進めて参ります。弊社の活動に引き続きご賛同・ご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。最後になりますが、今年度が皆様に取りまして最良の自己実現の年となりますことを祈念いたしまして年頭の挨拶といたします。ご静聴ありがとうございました。